



International Lawn Tennis Club of Japan

IC Council のAGM (全国加盟IC代表が参加する年次総会)が今年6月26日にロンドン、ローハンプトンにある、LTA National Tennis Centreで開催されました。各国の代表が集まり、IC日本を代表し、川廷栄一氏と吉井みさ子が参加し、以下の伝達が行われました事をご報告申し上げます。

■デンマークICメンバーのJorgen Ulrich氏が7月に、Kurt Nielsen氏が6月になくなったとの報告がありました。

■停滞する世界経済のせいか、全体的にみてICの試合の数が多少減少傾向にあるなか、インドネシアで行われた「Compass IC Junior Challenge Finals」や、1月にバハマで行われたダブルスの大会など、成功をおさめたイベントであったとの報告がありました。

■バルセロナ ポロ クラブにてスペインICが開催した Potter Cup は成功に終わったとの事でした。

■今後のIC活動の主軸の一つである慈善事業に関するコミティーの活動に期待がもたれるとのことでした。

■IC Council は震災に見舞われたニュージーランドと日本に対して、哀悼の言葉を述べ、吉井みさ子が IC Japan の代表として、震災後に各国から送られた哀悼と激励のメッセージに対するお礼を伝えました。

■今後行われるICの主要大会として、IC India が11月15日から20日に企画する祝賀イベント、さらにはバハマで今冬開催予定のダブルスのイベント、ウルグアイICの30周年記念大会などの開催報告を受けました。

■「IC Junior Challenge」の詳細説明と積極的な参加が呼びかけられました。IC Junior Challenge決勝戦は2012年1月10日-14日まで、オーストラリアで開催される予定です。

■「IC Jean Borotra Sportsmanship Award」の本年度の受賞者はブラジル出身の選手、グスタボ・クエルテンに決定しました。

■ウェブサイトが新しく作成され、近々すべての加盟ICのウェブサイトへの相互リンクもなされ、より相互コミュニケーションに役立てられるようです。

新サイト <http://www.ictennis.net/Home.aspx>

AGMに先だって午前中に行われたグループディスカッションでは、ICの活動をより充実、活性化させるにはどうしたら良いかなど、IC諸国で展開されている活動内容についてさまざまな面から積極的に意見交換がなされました。以下が主な協議点でした。

■イベントに加盟ICが参加する事 — これはICの活動の根本であり、すべてのICは組織を強化し、幅広い行事および大会に参加するように努力しなければならない。

■ICの活動持続性 — IC会員は、世界各国において会員メンバー同士が訪問しあい、プレーを楽しむ事ができるべくICの関連クラブリストを明確にし、相互に情報交換ができるよう整備するべきである。

■IC は明確なビジョンのもとに1~2人の運営担当に頼る事なく人的にもバランス良く運営されるべきである。

■各国のテニス協会と協力しながら活動し、協会にとっても有利な団体であるようにつとめるべきである

■慈善事業 - それぞれの国の状況にあったやり方で行うべきである。

■マーケティング - これはスポンサー探し、およびメンバーシップ強化においてとても重要である。



IC Council AGM June 2011



Gustavo Kuerten awarded the IC Jean Borotra Sportsmanship Award



2011年アジアジュニアチャレンジカップ国別対抗戦に参加して 中村吉人

今回の大会は16歳以下の団体戦ということで、同年代の世界のテニスに触れることにより、これから世界で戦う為のプレイスタイルやチームワーク、チームスピリットの大切さに気づき、各自今後のテニスに活かすことを目的に遠征をおこないました。

大会は、シンガポールで開催され、日本・インド・シンガポール2チームの4チームと戦うことになりました。急ぎょフィリピンのチームがなくなったことはとても残念でした。シンガポールは赤道直下に位置し気温は日本と殆どかわらないのですが、(31度前後)湿度が高く、選手はいつも以上に汗をかき、グリップをしっかり持つこともままならない状態で試合となりました。結果は、シンガポール(レッド)Aに4-1 シンガポール(ホワイト)Bに4-0で勝ち、最終戦インドと対戦しました。インド戦は6時間30分に及ぶ熱戦となりましたが、おしくも4-2で負け準優勝となりました。今回の4チームは思っていた以上に競技レベルが高く、好試合が沢山見られ選手強化として大きな成果を上げることができました。

会場には当協会の伍堂会長も応援に見えて選手諸君に力を与えてくれました。選手にとってはとても良い励ましとなっていたようでした。

選手諸君は高温多湿のなか本当によく頑張ってくれました。5泊6日を通じて日本のチームワーク、チームスピリットは少し築けたかなと感じています。

今回の海外遠征では、私たちの滞在期間中シンガポールICの方のサポートがとても良く、空港に着いてから帰るまで快適に過ごすことができました。試合や練習は勿論のこと、ウェルカムパーティや表彰式では、各国とのコミュニケーションの場をたくさん提供していただき選手間の絆ができていたのを感じました。この計画をしていただいた日本ICの吉井さんや、大会をサポートしていただいたシンガポールICの役員の方に深く感謝いたします。今後もこの大会がより発展するのを強く願っています。

大会詳細

●大会主催 国際ローンテニスクラブThe International Lawn Tennis Club

●大会名 「IC ASIAN JUNIOR CHALLENGE 2011」

●開催地 シンガポール Changi Beach Club

●遠征日程 8月29日～9月3日

●選手 16歳以下 4名

恒松 拓末	大成高校1年	武蔵野ドーム
豊嶋 一樹	堀越高校1年	桜田倶楽部
岡村 恭香	富士見丘高校1年	ビッグK
中村 文香	富士見丘高校2年	ビッグK

●引率 太田(東京都テニス協会理事)、中村(東京都テニス協会理事)

●参加国 日本・インド・シンガポールA・シンガポールBの4チーム

注 フィリピンが参加の予定であったが急ぎょ不参加となった。

●試合内容

◎対戦 男子シングルス2・シングルス2 男女ダブルス2 勝率同率の場合は、ミックスダブルスをプロセットにて行う。

◎試合 3セットマッチ、セットオールでスーパータイブレーク

◎シード ITFジュニアランキングにより決定

●海外遠征の目的

(強化)東京都の選手のレベルを上げる。世界に通用する選手の育成。

○2013年度東京都国体に向けての強化 参加年齢を16歳以下の参加条件とした。

○チーム戦に参加することにより、コミュニケーション能力を鍛えチームワークやチームスピリットの大切さを実感する。

○世界の選手とふれあうことで、今の自分のレベルの確認や将来に向けての課題を把握して今後のステップにつなげる。

ICアジア地区国別対抗戦 試合結果

日本、インド、シンガポールA、シンガポールB 4チームの総当たり (フィリピンチーム参加予定であったが不参加となった)

【1R】 4-1で日本勝利

	日本	スコア	シンガポールA(レッド)
女子シングルスNO1	岡村恭香	6-4 6-1	Rehmat Johal
女子シングルスNO2	中村文香	6-0 6-1	Izabella Tan
男子シングルスNO1	恒松拓末	6-7(5) 4-6	Lee Kaiyi
男子シングルスNO2	豊嶋一樹	6-1 7-5	Basir Kon
女子ダブルス	岡村/中村	6-0 6-0	Rehmat/Izabella
男子ダブルス	恒松/豊嶋	2-2 打ちきり	Lee/Basir

【2R】 4-0 日本勝利

	日本	スコア	シンガポールB(ホワイト)
女子シングルスNO1	岡村恭香	6-0 6-1	Hannah Chew
女子シングルスNO2	中村文香	6-0 6-2	Geraldine Ang
男子シングルスNO1	恒松拓末	6-2 6-3	Sean Lee
男子シングルスNO2	豊嶋一樹	7-5 3-6(6)	Steve Ng
女子ダブルス	岡村/中村	打ちきり	Hannah/Geraldine
男子ダブルス	恒松/豊嶋	打ちきり	Sean/Steve

【ファイナル】 2-4

	日本	スコア	インド
女子シングルスNO1	岡村恭香	7-5 7-5	Rinpled kaur Batth
女子シングルスNO2	中村文香	6-7(2) 3-6	Tarrannum Handa
男子シングルスNO1	恒松拓末	2-6 2-6	Fatehdeep Singh
男子シングルスNO2	豊嶋一樹	3-6 3-6	Shaikh Abdullah
女子ダブルス	岡村/中村	7-5 6-1	Tarrannum/Rinpled
男子ダブルス	恒松/豊嶋	5-7 6-7(4)	Shaikh/Fatehdeep

